

信するサイクルで取り組みます！

での課題・話題との関連を深めてみます。

北海道帯広町議会へ 視察してきました

東京都町村議長会の先進地視察で、11月14日・15日の日程で北海道浦幌町議会を訪問しました。浦幌町議会の特徴は、議員個人だけでなく「チーム議会」と名付けられた一連の取り組みであり、20代・30代の若手議員、特に女性議員が増えた取り組みが知られています。

視察内容は、議場での議会改革全般および一連の取り組みについての説明と質疑応答、少人数での意見交換会となりました。地域での実践を視察者も共有できるような仕組みであり、まさに視察にふさわしい知見も経験も共有できるものでありました。

次のなり手を 含めた議会改革

なり手不足解決のための複合的な取り組みは、当議会でもすでに取り組み・検証しておりますが、浦幌町ではより組織的に徹底している印象を受けました。なかでも年配の議員から若手の出馬に際して「とにかく嬉しい。選挙になるかならないか・議会が活性化するか」が大事で、自分の当落は「次の次」という言葉も実感できました。

地域を土台に、議員・議会が長らく当事者意識をもって取り組んできた結果かと思えます。

当議会に どう活かすか？

さて、当議会でも議会報告会や、なり手を増やす告知活動なども積極的に行いたいと思っております。3月定例会後は4年

間の任期の半分を経過したことになりますので、一度全議員参加の議会報告会および、それを皮切りにした地域課題解決への継続した議会内の取り組みを加速させていきたいと思っております。



- ▲議場で中継システムを体感しながらの質疑応答。設備や取組も共通点多い～浦幌町議会の多数の取り組み～
- ・議員報酬の見える化・根拠づけ
 - ・議会報告会、まちなかcafe、懇談会
 - ・議会後の全議員による振り返りの会
 - ・議員候補への議員の仕事説明

外から学び、地域で実践し、外に発

今回は、開かれた議会という議会の取り組みと、地域の課題、議員界限

主権者教育への意識の高まりを追い風に

11月13日に開催された全国町村議長の会全国大会において、国への重点要望の第五項目に「主権者教育の推進」が取り上げられました。全国での議会への多様な人材の参画と、民主主義意識の醸成が求められています。

当村の事例が全国規模の講演会に!

さて、前号で当議会での取り組みが「主権者教育事例集」に掲載されたことをお伝えしましたが、それが発端で11月29日に総務省主催の地方議会活性化シンポジウム2024にパネリストとして登壇する機会をいただきました。

全国から600名以上の傍聴・中継視聴者が集まる大きな規模かつ多様な登壇者も集まる会でした。

京都府議会議長からは、府議会と大学との連携・大学生との意見交換や、協働での政策提言などの事例、甲府市議会では組織的なことも議会（小学校6年生と中学校3年生）の取り組み事例などの紹介がありました。

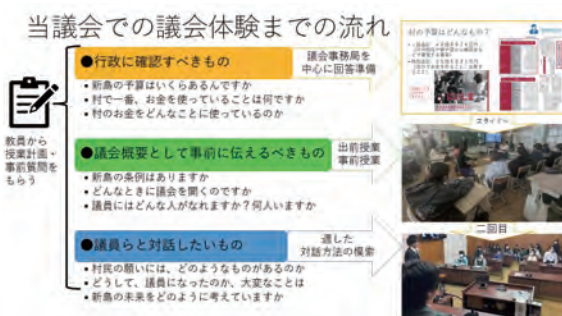
当議会は地域との距離が近い村かつ離島という前提を丁寧に説明しつつ、その強みを強調しました。村内全校・学年内の児童全員による議場体験が実施可能な規模感、議員と少人数でしっかり話せること、組織的というより人の柔軟な繋がりで展開してきたことも含めて説明させていただきました。

当村は最前線！議会の取り組みを地域の学びへ

発表を機会に、私が重視している探究学習としての側面も合わせて、体系的にまとめることができました。また議会体験では前述の浦幌町の議員懇談会のような、少人数での対話手法なども取り入れてきました。時代に求められることは、根底を抑えれば複合的

な接点や相乗効果を生むと思います。

この1月、2月も再び新島小学校6年生の議会体験を行います。ここからは、担当教員との接点だけでなく、教育委員会とも共有した地域全体のキャリアキュラムとなることを目指したいと思います。ぜひ村内の児童・生徒・教職員の皆さまも、当議会に気軽に声をかけていただけると幸いです。



▲シンポジウムの様子と発表スライド例